

立教大学学術推進特別重点資金 (立教 S F R)

在外研究

2016年度研究成果報告書

研究代表者	所属部局・職		氏名	
	社会学部・メディア社会学科・教授		黄 盛彬	
研究課題	越境化するメディア・文化の動態と受容・消費の動向:豪州と台湾における調査			
全研修期間	2016年8月2日 ~ 2017年3月29日 (240日間)			
経費	年度	SFR申請額	所属学部からの補助額	SFR助成額
	2015年度	円	円	円
	2016年度	2,277,601円	0円	2,277,601円
主な滞在国及び研究機関名	国名	研究機関名		
	豪州、台湾	Monash University (豪州)、天主教輔仁大学 (台湾)		
研究成果の概要 (図・グラフは使用しないこと)				
<p>今回の在外研究においては、トランスナショナルなメディア・文化の動向と、その受容・消費の動向を把握し、それがナショナル・アイデンティティと他者認識の形成に及ぼす影響のメカニズムの解明に関する研究を行った。オーストラリア在住の東アジア系住民、及び台湾における多様な背景を持つ人々を対象にフィールドワークと聞き取り調査を実施した。具体的には、それぞれの調査地域において、トランスナショナルなメディアや文化、そしてニュース情報などをどのように利用・受容しているのかを把握し、その受容・消費の動態と、ナショナル・アイデンティティ、他者認識、政治世論との関連を調査・分析した。</p> <p>メルボルン地域には、古くからの多様な世界からの移民に加えて、近年、中華圏及び日本や韓国からのニューカマー移民、そして留学生などの多様な背景を持つ住民が多く居住している。近年のグローバル化の深化やメディア・テクノロジーの発展、そしてオーストラリア社会の多文化・他文化への「寛容」も加わり、世界のどの社会よりも、トランスナショナル化の度合いは進展している。こうした人々がどのように母国または他の東アジア地域からのニュースやポピュラー・メディア商品を受容・消費しており、それが政治意識や遠隔地ナショナリズム、そして他者認識にはどのような影響を及ぼしているのか、その実態、メカニズムを解明することを目的として、文献研究、フィールドワーク、聞き取り調査を実施した。また、多文化社会としてのオーストラリア社会における他者への寛容な態度、少なくとも規範としての寛容が定着されている状況において、その寛容が東アジア系移民としての遠隔地ナショナリズムや、他のアジア諸国に対する排他的な他者認識にはどのような影響を及ぼすのかについても、聞き取り調査を行った。</p> <p>一方、台湾においては、多文化化の歴史や文脈が異なることを考慮に入れ、その社会の多文化性に関する文献研究及びフィールドワークを中心に展開した。大学図書館の文献資料へのアプローチに加え、各種の博物館、記念館などの展示のナラティブに関する分析、そして台北市内の主要な街、建物などへ観察から問題へのアプローチを行った。</p>				

**研究成果の概要** (つづき)

両地域に置いて実施した聞き取り調査では、移住者集団に属する人々が実際にどのような情報行動を行っており、またどのように消費し、その意味を構築しているのかに注目した。フィールドワークについては、日常的な観察者の感覚を大事にして、メルボルン地域では、その地域でのアジア系商業施設が位置するショッピングモールやビデオレンタル店、その他、人々が集まる空間において、どのような文化、そしてメディアの消費が行われているのかを観察し、そこで働く人々や消費者への調査を行い、それをフィールドノートとして記録した。台北では、特に調査対象を限定せずに、台湾内部における多様・重層性に注目して調査に取り組んだ。聞き取り調査に関しては、いずれの地域においても、まずは大学周辺でフォーカスグループを組織し、その後、調査対象者を拡張していった。一連の調査では、メディアやポピュラーカルチャーの需要・消費動向に加え、たとえば、移住者の人々の民族意識やナショナリズムに関する意識、地域などのコミュニティへの帰属意識なども質問項目に含めた。長期滞在であるメリットを生かし、継続的な聞き取り調査を実施し、国籍、教育、エスニシティ、ジェンダーといった多様な差異に注目しつつ、できる限りディープな、そして厚い記述ができるように試みた。聞き取り調査の言語は、できる限り、調査対象者のネイティブ言語または最も安心して話せる言語を用いるようにしたが、日本語、英語、韓国語での実施は問題なく進んだが、台北調査に関しては、本在外研究期間中では実施できず、後続調査を行うこととなった。研究成果の発表は、滞在先大学での研究会などの機会を発表をする形にとどまったが、今後、学会発表や論文発表を行う予定である。

**キーワード** (研究内容をよく表しているものを5項目で記入)

[ナショナル・アイデンティティ] [他者認識] [政治世論] [メディア] [多文化化]

**研究発表** (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

「戦後日本における親韓の意味」『応用社会学研究』立教大学大学院社会学研究科、第59号 (2017.3 発行)。なお、翻訳・加筆修正の上、以下の単行本に収録される予定。趙寛子編『脱戦後、日本の思想と感情』ソウル大学日本研究所現代日本生活世界叢書 12=조관자편, 탈 전후 일본의 사상과 감정, 서울대학교 일본연구소 현대일본생활세계총서 12, 박문사)

「本音と建前が錯綜する中国人観光客報道」『東アジア観光学：やっかいな東アジアを旅する』亜紀書房、2017年3月発行  
Sleeping Together with Different Dreams?: Japanese Media's Gaze and Representation of Chinese Tourists, Monash Asia Institute and Japanese Studies Centre Seminar, October 6, 2016, Monash University, Melbourne, Australia

Alien Voices in the National Song Festival of Japan, Kohaku, The 5<sup>th</sup> IAPMS 2016 Melbourne Conference, December 11-12, 2016, Monash Asia Institute, Monash University, Caulfield Campus, Melbourne, Australia

その他、天主教輔仁大学伝播学院の教授会メンバーによる研究会で、台北でのフィールドワークの概要、進行状況について報告を行った (3月8日)。また、天主教輔仁大学の大学院クラス「Seminar on International Communication: Digital Communication Trends and Policy」(Professor . Yi-Hsing(Paul) Han) において、2回のレクチャー(3月6日、13日)を行った。第一回のタイトルは、「Republic.com revisited, here and now」、第2回目は、「Digital Communication, alternative media and social movement」。いずれの講義においても、在外研究中の研究内容を紹介しながら、各地域での現状について話し、受講生からの意見も聴取した。

なお、本在外研究中の調査分析の直接的な成果は、2017年度中の学会発表や論文投稿の形で行われる予定である。

※この(様式2)に記入の、成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A4縦型横書き1枚・自由様式)を添付すること。